様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(A)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３２４２０４１

研究課題名（和文）東アジアにおける日本墨書土器データベースの構築

研究課題名（英文）Constructing a Database of Japanese Pottery with Ink Inscriptions as a Contribution to Ancient East Asian History

研究代表者
吉村　武彦（YOSHIMURA, TAKEHIKO）

明治大学・文学部・教授

研究者番号：５００１１３６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　17,300,000円

研究成果の概要（和文）： 研究の基礎となる墨書土器研究文献目録は2061点を数え、明治大学のホームページで順次公開している。データベースは、秋田県*・岩手県*・山形県*、茨城県補遺*・千葉県*、長野県・岐阜県、奈良県（平城京）*、広島県*・山口県、鹿児島県・宮崎県補遺のデータベースを作成し、ホームページで公開(*は６月公開)。現在は、約11万点弱を数え、汎日本的な墨書土器研究ができる条件が整備されつつある。また、全国墨書・刻書土器データベース検索（オンライン検索〉」にデータを提供し、ネット上で検索できる。中国の墨書土器（磁器）を集成し、比較研究が可能となった。地域研究では市川市史編さん事業調査報告書刊行に協力した。

研究成果の概要（英文）：Since very few sources are available for research into the ancient history of Japan, artifacts with inscriptions that have been archaeologically excavated are indispensable. We have created electronic database of pottery with ink inscriptions discovered in Japan, and published it on the homepage of the Meiji University. The database consists of 2061 references of relevant literature as well as pottery discovered from the northeastern mainland Japan to Kyushu. In addition, we have for the first time published database of pottery with ink inscriptions discovered in Nanjing, China. This will allow comparative study of ancient cities in China and in Japan

研究分野： 日本古代史

キーワード： 日本史　考古学　墨書土器　古代史　データベース　出土文字史料

１．研究開始当初の背景

（1）文献・文字史料がきわめて少ない日本古代史の分野では、出土文字史料の木簡・墨書土器（含刻書土器）・文字瓦などが貴重な史・資料である。木簡に関しては、独立行政法人奈良文化財研究所(奈文研)が木簡データベースを公開しているが、墨書土器についてはデータベースが存在しなかった。

（2）日本全国の簡易型墨書土器データベースは、「釈文・遺跡名・所在・出典」の形式、関東・九州等の地域を中心とする画像付き詳細なデータベースは、「遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体」を網羅する形式で、墨書土器研究文献目録とともに、明治大学・古代学研究所のホームページで公開してきた（http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/）。しかし、膨大な作業が必要なため、全国を網羅する詳細な墨書土器データベースの構築は、まだ形成途上であった。

（3）墨書土器データベースの公開は、すでに『史学雑誌』(史学会)や『日本歴史』（日本歴史学会）をはじめとする古代史学界で高く評価され、日本古代史研究に欠かせないデータベースとして存在感を高め、全国的な詳細なデータベースの完成が求められていた。

２．研究の目的

（1）日本古代史では、研究史料となる文献史料がきわめて少なく、考古学の発掘調査で出土する木簡･墨書土器（刻書土器を含む）・文字瓦などの出土文字史料が重要な史料である。出土文字史料群として最多の木簡は数十万点とされ、奈良文化財研究所により木簡データベースとしてネット上で公開されている。木簡につぐ数の墨書土器については、本研究代表者が明治大学の古代学研究所のホームページで、検索機能も付加して公開し、古代史研究に寄与してきた。日本国内における詳細な画像情報付きの墨書土器（刻書土器を含む）データベースを完成・公開することは、古代史研究を発展させるために喫緊の課題である。しかも、全国版は我々の研究しかない。

（2）毎年、出土数が増加する墨書土器データベースを拡充させることも重要であり、文字史料の少ない古代史では必要不可欠な研究である。これまで一部の県・市などの行政単位で県・市史の編纂事業として作成されているが、県・市史の刊行後は終了するのが現状である。そのため、本データベースの集成作業は継続する必要がある。

（3）日本の墨書土器を、東アジアの視点から研究する。特に韓国・中国から出土する墨書土器の研究は、ほとんど進んでいない。日本だけでなく、韓国・中国を含めた墨書土器研究に発展させることは、同じ漢字文化圏の研究として重要である。まず両国の研究状況を掌握して、部分的にも集成作業を開始する。現在の知見では、日本の墨書土器は中国南朝と百済の影響が多いと思われるが、現地の研究者の協力を得て、共同研究に発展させていくことを視野に入れている。

３．研究の方法

（1）歴史学や史料学においては、史料群のデータベースの構築自体が重要な研究である。墨書土器（刻書土器を含む）に関係する報告書・概報・地方史誌などの資料・文献の調査を行い、必要な報告書等を購入するとともに、現地の博物館・埋蔵文化財センターに出張して、各種文献の複写などにより基礎的な資料収集を行う。連携研究者と研究協力者の支援をえて、各地域の出土文字史料を収集し、日本全国の墨書土器研究文献目録の作成とデータベースを構築する。

（2）墨書土器データベースの構築は、各都道府県単位（旧国制も配慮する）に関係文献を収集し、関係データを集成する。墨書土器は、主に考古学の発掘調査によって出土する。そのため、この作業には、地域において墨書土器等の出土文字史料に詳しい研究者・発掘担当者らと連携し、墨書土器関係の文献調査、とりわけ発掘調査報告等の文献調査を徹底する必要がある。

（3）墨書土器の基礎的情報のデータ（釈読文・実測図、遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向･字体）を収集する。作業としては、各地の墨書土器関係の情報（報告書・概報・地方史誌等）を収集して予め設定した必要項目ごとに表形式のデータを入力していき、電子媒体化してホームページで公開する。釈読文の参考と研究進展のため、可能な限り墨書土器のトレース図・写真画像も併載する。

（4）墨書土器の歴史的意味を解明するため、出土文字史料が豊富な下総国府・国分寺地域（千葉県市川市）を対象に、地域研究を実施する。さらに、日本の墨書土器の特徴と独自性を究明するために、韓国・中国出土の墨書土器と比較研究を行い、データベース作成のための準備作業とする。

４．研究成果

（1）データベースの公開は、すでに『史学雑誌』(史学会)や『日本歴史』（日本歴史学会）をはじめとする古代史学界で高く評価されてきた。近年では、日本古代史研究の基本的ツールとして、本データベースは位置づけられ、墨書土器の調査・研究では本データベースを利用することが重要と認識されてきた。また、学術論文にも記述されることが多くなってきた。これまでのデータベースの補

訂・拡充を行うことができたが、まだ部分的である。墨書土器研究文献目録は、2061 点を数えるようになり、明治大学のホームページで順次公開している。

（2）日本国内では、秋田県*・岩手県*・山形県*の東北地方、茨城県補遺*・千葉県*の関東地方、長野県・岐阜県の中部地方、奈良県（平城京）*の近畿地方、広島県*・山口県の中国地方、鹿児島県と宮崎県補遺のデータベースを作成し、明治大学・古代学研究所のホームページで公開ないし公開準備作業を行った(*は６月公開)。このほか、愛知県（約 2000 件）・三重県（約 1800 件）を継続して作業中である。この結果、完成したデータベースにより、全体として平城宮・京と全国の主要地域の比較研究が可能となり、汎日本的な墨書土器研究ができる条件が整備されつつある。ただし、恒常的に墨書土器の出土が増えているので、補充・拡充も新たな研究課題となっている。

（3）データベースの公開以外に、「全国墨書・刻書土器データベース検索（オンライン検索〈試行版〉」にデータを提供し、インターネット上で検索できるシステムを公開している。

（4）調査を実施した中国南京市の六朝建康城遺跡の墨書土器について、調査担当者の王志高氏による論文「六朝建康城出土の墨書磁器の整理と分析」（『古代学研究所紀要』18）というかたちで公表した。中国の墨書土器（磁器）が、集成されたのははじめてで、約 110 点にのぼる。これによって、日中の都城における墨書土器の比較研究が可能となった。また、ベトナムのハノイ（旧安南都護府所在地）のタンロン城遺跡から、中世の墨書土器（陶器）が出土していることが判明した。日本・韓国・中国のみならずベトナムを含む墨書土器調査の重要性を確認した。現在、現地の研究者の協力で、中国・韓国扶余地域の文字史料研究の報告を準備中である。

（5）地域研究については、市川市史編さん事業調査報告書『下総国戸籍』の「釈文編・解説編」と「遺跡編」の刊行に、連携研究者を含めて協力した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２６件）
①加藤友康、平安期の貴族社会と文芸、『古代学研究所紀要』、査読無、21 号、2014、pp.24-42
②柴田博子、古代の日向、古事記年報、査読有、56 号、2014 年、pp.5-24
③吉村武彦、ヤマト王権と氏族、中国社会科学院国際合作局・日本明治大学『中日交流与中日関係的歴史考察学術交流会（第三届）』論文集、査読無、 2013 年、pp.168-179
④柴田博子、未使用の転用硯、『宮崎考古』、査読無、24 号、2013、pp.39-48
⑤荒木志伸、城輪柵からみた秋田城－政庁遺構の比較検討から－、『秋田考古学』、査読有、第 57 号、2013、pp. 57-70
⑥柴田博子、六朝建康城遺跡出土の墨書磁器について、『古代学研究所紀要』、明治大学古代学研究所、査読無、第 18 号、2013、pp.93-96
⑦加藤友康、藤原実資がみた延喜式、『東京国立博物館古典籍叢刊　九条家本延喜式２』月報、査読無、2012、pp.1-3
⑧市大樹、日本古代木簡の多機能性、中国法政大学法律戸籍整理研究所・奈良大学簡牘研究会・中国法律史学会古代法律文献専業委員会編『東アジアの簡牘と社会』、査読無、2012、pp.85-99
⑨市大樹、御食国志摩の荷札と大伴家持の作歌、『万葉集研究』、査読無、33 集、 2012、pp.207-260
⑩柴田博子、『長門本平家物語』硫黄島配流道行き説話の研究状況、『宮崎県地域史研究』、査読無、26 号、2012、pp.27-44
⑪荒木志伸、墨書土器からみた山寺、『季刊考古学』、雄山閣、査読無、第 121 号、2012、pp.73-76
⑫荒木志伸、清原氏台頭の歴史的背景－横手盆地の考古学資料から－、『秋田考古学』査読有、第 56 号、2012、pp.12-42
⑬荒木志伸、山寺立石寺、『季刊考古学』、雄山閣、査読無、第 121 号、2012、pp.37-40
⑭吉村武彦、列島の文明化と律令制国家、中国社会科学院国際合作局・日本明治大学『中日交流与中日関係的歴史考察学術交流会』論文集、査読無、 2011、pp.16-34
⑮市大樹、飛鳥浄御原令について、『歴史と地理』、査読無、233 号、2011、pp.21-26
⑯柴田博子、上多々良遺跡出土の墨書土器について、『上多々良遺跡』、査読無、延岡市文化財調査報告書第 45 集、2011、pp.236-241
⑰荒木志伸、城柵型政庁の再検討、『古代学研究所紀要』、明治大学古代学研究所、査読無、第 15 号、2011、pp.47-59
⑱吉村武彦、平城遷都と古代日本の成り立ち、『NARASIA 東アジア共同体？－いまナラ本－』、丸善、査読無、2010、pp.426-440
⑲荒木志伸、城輪柵の政庁に関する一考察『日本古代学』、明治大学日本古代学教育・研究センター、査読有、第 2 号、2010、pp.1-16
⑳川尻秋生、保安元年「摂津国帳簿群」の性格、『古代文化』、査読有、62-1 号、2010、pp.123-129
㉑荒木志伸、「寺」は施設名か-寺の外から出土する寺墨書土器-、『古代学研究所紀要』、明治大学古代学研究所、査読無、第 11 号、

2009、pp.1–20
㉒吉村武彦、東国の国造、『飯田市歴史研究所年報』、査読無、7号、2009、pp.8-29
㉓吉村武彦、日本列島における国家形成、『日本古代学』、査読有、1号、2009、pp.3-12
㉔加藤友康、古代史研究とデータベース、『日本歴史』、査読無、740、2009、pp.108-111
㉕柴田博子、出土文字資料からみた古代の諸県郡、『地方史研究』、査読無、340号、2009、pp.13-16
㉖服部一隆・柴田博子、福岡県出土墨書・刻書土器集成、『古代学研究所紀要』、明治大学古代学研究所、査読無、第11号、2009、pp.21-80

〔学会発表〕（計３１件）
①川尻秋生、「古代の村」シンポジウム・古代下総の村を考える、市川考古博物館、2014年3月16日
②川尻秋生、平将門と我孫子の古代、我孫子市歴史講演会、2014年2月1日
③加藤友康、日本古代社会論と吉田晶さん―『日本古代村落史序説』・「村落首長制」論を中心に―、大阪歴史科学協議会1月例会、於大阪市、2014年1月25日
④加藤友康、平安貴族社会における漢籍の受容―摂関期における漢籍の所蔵と流通・利用を中心に―、国際学術研究会・交響する古代Ⅳ、於明治大学、2013年11月2日
⑤川尻秋生、地域史からみた通史－房総の歴史から日本史へ、第 31 回千葉歴史学会総会・大会基調講演、千葉歴史学会、2013年5月20日
⑥加藤友康、日本古代社会における交通と地方社会（第 11 回飯田市地域史研究集会）、於飯田市、2013年8月24日
⑦加藤友康、奈良・平安時代における文書の整理と保管－「東アジアの文書」論のための前提－、国際学術研究会・交響する古代Ⅲ、於明治大学、2013年2月22日
⑧吉村武彦、７世紀の女性天皇、金鵄会、長野市、2013年1月19日
⑨加藤友康、出土文字史料からみた日本古代の情報伝達、高麗大学校・明治大学学術交流研究集会、於高麗大学校（韓国）、2013年1月7日
⑩吉村武彦、歴史における飛鳥、国際飛鳥学、明日香村、2012年11月10日
⑪吉村武彦、古代日本の女帝の出現、第3回高麗大学校・明治大学国際学術会議、於ソウル(高麗大学校)、2012年9月13日
⑫吉村武彦、７世紀の女帝の出現と律令法、明治大学・中国社会科学院第２次学術研究会、於明治大学、2012年7月26日
⑬川尻秋生、菅原道真と和歌、国際学術研究会・交響する古代Ⅱ－国際的日本古代学の展開、於明治大学、2012年3月20日
⑭加藤友康、平安貴族による日記利用の諸形態、国際日本文化研究センター共同研究「日記の総合的研究」2011年度第5回研究会、於国際日本文化研究センター、2012年2月18日
⑮川尻秋生、古代・中世の野田地域、野田市史集中講座、2012年2月25日
⑯吉村武彦、５・６世紀における半島・列島間交流、第１回高麗大学校・明治大学国際学術大会「韓・日文化交流の諸相」、於韓国(高麗大学校)、2011年3月29日
⑰吉村武彦、列島の文明化と律令制国家、明治大学と中国社会科学院との学術検討会「中日交流と中日関係の歴史的考察」、於中国(中国社会科学院)、2011年3月14日
⑱加藤友康、平安貴族と古記録、清華大学・明治大学学術交流会、於清華大学（中国）、2011年9月23日
⑲加藤友康、平安時代の房総の受領と中央貴族、千葉歴史学会、於千葉大学、2011年5月15日
⑳吉村武彦、列島の文明化と国家のしくみ、国際学術研究会・交響する古代、於明治大学、2010年11月5日
㉑吉村武彦、『いま、なぜ邪馬台国か？』考古学だけでは不十分、文化庁他主催、シンポジウム「いま、なぜ邪馬台国か？」、於江戸東京博物館、2010年7月3日
㉒吉村武彦、ヤマト王権の成立と前方後円墳、中国社会科学院考古研究所学術発表会、於中国(中国社会科学院)、2009年12月3日
㉓吉村武彦、日本における令集解の研究、 中国社会科学院歴史研究所研究会議、於中国(中国社会科学院)、2009年3月5日
㉔吉村武彦、日本列島における国家形成、 中国社会科学院世界歴史研究所研究会議、於中国(中国社会科学院)、2009年3月4日
㉕川尻秋生、古代印旛と大和王権、千葉県立房総のむら企画展講演会、2009年10月25日
㉖吉村武彦、邪馬台国・前方後円墳・ヤマト王権、 2009 年度桜井市歴史観光フォーラム、於東京都、2009年10月31日
㉗吉村武彦、奈良時代の国府・国分寺の造営、市川市制施行75周年記念・市川市史編纂講演会（古代学研究所共催）、於市川市、2009年10月10日
㉘吉村武彦、ヤマトタケルと東国、(市川市制施行 75 周年記念・市川市史編纂講演会（古代学研究所共催）、於市川市、2009 年7月25日
㉙吉村武彦、ヤマト王権の形成と大和・河内、明治大学公開講演会、於奈良市、2009年7月12日
㉚吉村武彦、江田船山古墳出土大刀とヤマト王権、(明治大学公開講演会、於熊本市、2009年6月7日
㉛吉村武彦、ヤマト王権と古代東国、藤沢市生涯学習大学、於藤沢市、2009 年 3 月 13 日

〔図書〕（計２４件）
①川尻秋生、飛鳥・白鳳文化、岩波書店『岩

波講座　日本歴史　古代２』、2014(3 月 19 日、pp.177-208
②市大樹、大化改新と改革の実像、岩波書店『岩波講座　日本歴史　古代２』、2014(3 月 19 日、pp.253-286
③市大樹、難波長柄豊碕宮の造営過程、思文閣出版『交錯する知－衣装・信仰・女性』(武田佐知子編)、2014(3 月、pp.285-303
④吉村武彦、山河海のコスモロジー、八木書店『古代山国の交通と社会』、2013(10 月 15 日、pp.3-22
⑤川尻秋生、国分寺造営の諸段階−文献史学から−、吉川弘文館『国分寺の創建　組織・技術編』(須田勉・佐藤信編)、2013、pp.45-63
⑥市大樹、国分寺と木簡−但馬国分寺木簡を中心に−、吉川弘文館『国分寺の創建−組織・技術編−』(須田勉・佐藤信編)、2013、pp.167-187
⑦吉村武彦・加藤友康・川尻秋生ほか、市川市『下総国戸籍・遺跡編』(市川市史編纂事業報告書)、2013 年 3 月、pp.1-4・217-219・227-231
⑧川尻秋生、安房国関係木簡二題、同成社『技術と交流の考古学』(岡内三眞編)、2013、pp.694-701
⑨吉村武彦、古代史からみた王権論、同成社『古墳時代研究の現状と課題』、2012、pp.375-391
⑩吉村武彦、岩波書店『女帝の古代日本』(岩波新書新赤版 1396) 2012 年、234
⑪市大樹、中央公論新社『飛鳥の木簡−古代史の新たな解明−』、2012、303
⑫加藤友康、平安貴族の国際意識、世界出版社（ハノイ市）『日本研究論文集日本とアジア』(ファン・ハイ・リン編)、2012、pp.51-64（ベトナム語訳　pp.59-78）
⑬吉村武彦・加藤友康・川尻秋生ほか、市川市『下総国戸籍・解説編』(市川市史編纂事業報告書)、2012、pp.1-11・11－14・14-19
⑭吉村武彦、列島の文明化と国家のしくみ、東京堂出版『交響する古代－東アジアの中の日本－』(石川日出志・日向一雅・吉村武彦編)、 2011、pp.139-156
⑮吉村武彦、「邪馬台国」考古学だけでは不十分、朝日新聞出版『研究最前線邪馬台国』(石野博信・高島忠平・西谷正・吉村武彦（共編著)、2011、pp.97-121(256p)
⑯市大樹、吉川弘文館『すべての道は平城京へ−日本古代国家の〈支配の道〉−』、2011、247
⑰川尻秋生、国分寺・国庁の法会、吉川弘文館『国分寺の創建　思想・制度編』(須田勉・佐藤信編)、2011、pp.29-52
⑱市大樹、物品進上状と貢進荷札、汲古書院『古代東アジアの出土文字資料と情報伝達』(松原弘宣・藤田勝久編)、2011(5 月、pp.261-297
⑲川尻秋生、仏教文化のはじまり、吉川弘文館『史跡で読む日本の歴史３　古代国家の形成』(森公章編)、2010、pp.172-194
⑳川尻秋生、墨書土器からみた本貫地、同成社『比較考古学の新地平』(菊池徹夫編)、2010、pp.505-514
㉑吉村武彦、岩波書店『ヤマト王権』(岩波新書新赤版 1272)、2010、196p
㉒吉村武彦・舘野和己・林部均、角川書店『平城京誕生』、2010、pp.6-58・pp.173-186
㉓吉村武彦、「東国の調」とヤマト王権、高志書院『房総と古代王権』、2009、pp.347-371
㉔川尻秋生、東国からみた東北との交流、六一書房『古代社会と地域間交流−土師器からみた関東と東北の様相−』(国士舘大学考古学会編)、2009、pp.111-121

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html

６．研究組織
(1)研究代表者
吉村　武彦（YOSHIMURA, Takehiko）
明治大学・文学部・教授
研究者番号：５００１１３６７

(2)研究分担者
加藤　友康（KATO, Tomoyasu）
明治大学・大学院・特任教授
研究者番号：００１１４４３９

(3)連携研究者
川尻　秋生（KAWAJIRI, Akio）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：７０２５０１７３

柴田　博子（SHIBATA, Hiroko）

宮崎産業経営大学・法学部・教授
研究者番号：２０２１６０１３

市　大樹（ICHI,　Hiroki）
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：００３４３００４

荒木　志伸（ARAKI,　Shinobu）
山形大学・基盤教育院・准教授
研究者番号：１０３２６７５４